

河川、砂防、海岸分野における施設維持管理、操作の高度化対策【国土交通省】

施策概要 適切な施設の維持管理や操作の高度化を図るため、排水機場等の遠隔操作化や、3次元データ等のデジタル技術を活用した維持管理・施工等を実施

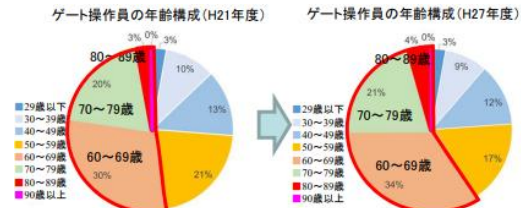
効果 施設の遠隔操作化などデジタル技術の活用により、維持管理・施工等の効率化・省力化に貢献

全国的な対策と効果

河川管理施設（樋門・水門・排水機場）の遠隔操作化により緊急時においてもゲート操作や排水作業が可能な体制を確保



【樋門・樋管の操作員の年齢構成】



【短時間強雨の発生回数】



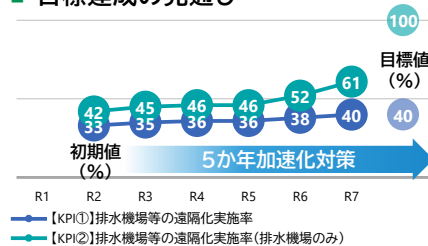
ゲート操作員の高齢化が進行する一方、短時間強雨の回数は増加しており、現地作業の負担が増加

■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
19億円	61億円	52億円
R6	R7	累計
45億円	40億円	216億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

■ 目標達成の見通し



整備事例

排水機場の遠隔操作機能の整備により、排水機能を強化する



国土交通省 九州地方整備局
川内川河川事務所

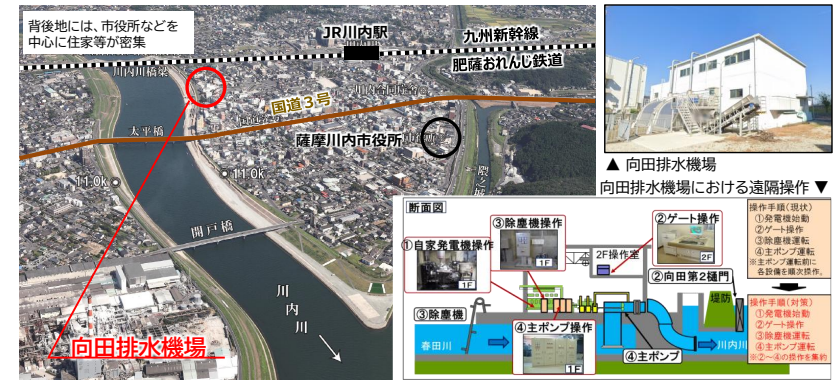


鹿兒島県薩摩川内市



川内川河川維持修繕事業

■ 向田排水機場(川内川水系川内川)



■ 事業費

0.6億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.6億円)

■ 事業の背景(地域の課題)

鹿兒島県薩摩川内市に位置する向田排水機場は、背後地に薩摩川内市街部を抱えており、浸水被害軽減のため洪水時には、春田川から川内川に排水作業を行っています。近年、水災害が頻発化・激甚化しており、本地域においても短時間強雨等により急激な水位上昇が生じ、現地へのアクセス不能となる恐れや操作員の退避が必要となる可能性があるため、より確実に施設を操作できる体制を確保する必要があります。

■ 事業の内容

確実な操作体制の確保のため、向田排水機場において遠隔操作機能の整備を実施しました。

■ 見込まれる効果

河川事務所や操作委託先である自治体から遠隔操作が可能となり、急激な水位上昇により現地へのアクセス不能な場合や操作員の退避が必要な場合においても、より確実に操作を行うことで、浸水被害の防止・軽減に寄与します。



(1) 人命・財産の被害最小化

(2) 交通・ライフラインの維持

2 インフラの老朽化対策

(1) 3 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

(2) 災害関連情報の高度化